

様式9

論文審査結果の要旨

報告番号	甲 創 第 34 号	氏名	Rezwanul Islam
審査委員	主査 滝口 祥令 副査 土屋 浩一郎 副査 藤野 裕道	印	印
		印	印
		印	印

学位論文題目

Investigating the Suppressive Effect of Ampelopsis Glandulosa (Wild Grape) On Transcriptional Up-Regulation of Allergic Sensitive Genes
(野ブドウによるアレルギー疾患感受性遺伝子発現亢進に対する抑制効果の検討)

審査結果の要旨

アレルギー性鼻炎において、症状の重篤性と鼻粘膜ヒスタミンH₁受容体(H1R)遺伝子およびIL-4、IL-9などのTh2サイトカイン遺伝子の発現亢進が相関することから、これらアレルギー感受性遺伝子発現制御による鼻症状の改善が治療ストラテジーとなりうる。本論文は、抗アレルギー効果が伝承される生薬Wild Grape(WG)のアレルギー性鼻炎抑制効果と遺伝子発現抑制を介した作用機序の解明を目的としたものである。WG抽出物は鼻アレルギーモデルラットにおいて鼻症状を軽減し、その作用機序はPKCδシグナル経路阻害によるH1R遺伝子発現抑制とNFATシグナル経路阻害によるTh2サイトカイン遺伝子発現抑制によることを明かにした。また、徳島特産の発酵茶・阿波晩茶にも、WGと同様なアレルギー感受性遺伝子発現抑制効果があり、WGと阿波晩茶の併用により抗アレルギー効果が増強されることを見出した。加えて、WG抽出物は鼻アレルギー時に増加する好酸球IL-33遺伝子発現を抑制したことから、WGは好酸球が関与する炎症を抑制することが示唆された。

以上、WGはアレルギー感受性遺伝子発現抑制効果を有することを明らかにした本論文の成果は、アレルギー性鼻炎に対する天然医薬を用いた治療法の有効性および、本薬理作用を有する新規活性リード化合物の単離と創薬に繋がる可能性を示した知見であり、博士論文に値すると認めた。